

令和4年度 第1回那須地域定住自立圏共生ビジョン懇談会

開催日時 令和4(2022)年9月27日(火) 午前11時から午後0時3分まで

開催場所 那須塩原市役所本庁舎 303 会議室

出席委員 7名

欠席委員 4名

那須塩原市 企画部長

事務局 那須塩原市企画部企画政策課 3名

構成市町 大田原市 政策推進課 1名

那須町 企画財政課 1名

那珂川町 企画財政課 1名

傍聴者 なし

1 開 会

2 あいさつ(会長)

新型コロナウイルス感染症で非常に大変な状況ではあるが、ウィズコロナで日常生活が徐々に戻ってきている。共生ビジョンの事業も、今まではコロナの影響を受けてきたが、これからは少しずつ事業に着手できるだろうから、そういったことも踏まえて、忌憚のない御意見をいただければと思う。

3 報 告

(1) 令和3(2021)年度事業実績について

(事務局より説明)

【質疑・意見交換】

特になし。

4 議 事

(1) 第2次那須地域定住自立圏共生ビジョンの改定について

(事務局より説明)

【質疑・意見交換】

委 員 : 事業費が0となっている事業は、果たして事業といえるのか。予算を多少でも

つけないとアクションを起こせないのではいかと思う。予算がついているところはついている印象で、例えば、「観光宣伝事業」は結構多くの予算がついているが、その具体的について教えていただきたい。

事務局 : 事業費が 0 となっている事業については、各事業において、具体的な取組の検討を進めている事業が主に 0 となっており、今後、実施する取組が具体化した際に、必要な事業費を計上していく。

次に、観光宣伝事業については、観光案内所の運営や日本遺産活用推進協議会における各取組などに係る事業費が計上されている。

委員 : 観光案内所の運営費はどれくらいかかっているのか。

事務局 : 約 400 万円である。

会長 : 事業費が 0 となっているのは、今後、議論の中で必要になった際に事業費を計上していくこととなるだろう。また、これまではコロナ禍でなかなかやれない部分もあったと思われるため、必要なものについては、徐々に事業費が計上されていくことを期待したい。

委員 : 検討中のものを検討中のままにしないことが重要である。

会長 : 新たな取組ができないという状況もあろうかと思うが、そろそろウィズコロナで検討していかないといけない部分もある。特に、移住者数を見ると、那須塩原市、大田原市及び那須町は、東京から相当な人が来ている。自然増は非常に難しい中で、コロナが影響しているかははっきりとは分からないが、圏域で見て社会増となっているのは非常に重要なこと。これに乗じて那珂川町も社会増に転じると良いと思う。那須町と那珂川町は県内の他市町に出してしまうのが多い印象だが、こういった人口動態を見て、移住・定住の取組でターゲットを明確にしていくことが重要。

委員 : 那珂川町は、過去 2, 3 年の減少率から比べれば、今年に入ってから減少は改善されている。新聞の人口動態に関する記事を見ても、今まで那珂川町は、常に 30 から 40 人減っていたが、今回は 1 桁の減少になっていて驚いた。実際のところの影響は何か分からないが、那珂川町に住んでいる人が家を建てるなどする場合には、那珂川町よりも交通インフラが整っている市町を選ぶ人がほとんどで、それが今、コロナの影響で停滞しているのではないかと思う。減少率が鈍化しているのは、コロナの影響によるもの。さらに、コロナ禍で密を避けるために東京から転出する人が増えたことで、社会増となっている地域もあると思う。

会長 : 圏域内で見ると、那須塩原市と那須町は、東京から相当な数来ている。那須塩原市は特に令和 2 年から令和 3 年にかけて増えている。これは需要があるとい

うこと。これを圏域内にどう広げていくか。

委員：那珂川町は、さくら市と高根沢町に引っ越す人が多いが、それがコロナで、少しブレーキをかけているのかなと思う。

会長：さくら市の場合は、市内のどこでも家を建てられる。

委員：さくら市と高根沢町では、高根沢町より固定資産税が安いと聞く。

委員：やはり、氏家や高根沢町は、JRも通っており、そういったのも大きいと感じる。そのため、圏域内で那珂川町を中心とした交通インフラの整備を具体的に検討していく必要があると感じる。まちなかへのアクセスが悪く、なかなか行けないという方が多い。

さらに、定住と同時に結婚支援サポートが重要。女性が東京圏に転出することが多い。結婚して転出してしまう方が多いから、やはり女性にしても男性にしても圏域内でまわすじゃないけど、圏域内の方と結婚すれば転出がなくなる。そのため、那須塩原市だけの結婚イベントではなく、圏域内で一緒に出会いを作りましょうというのはすごく大切だと思う。あとは、定住のサポートも重要。例えば、東京からだけじゃなくて、那須地域の中で移動する方へ少し補助するなど。県内で競うわけではないが、さくら市に行くのであれば那須町に来てほしいということ伝える。

会長：栃木県内は女性より男性の方が多。若い男性は多いが、女性が出ていってしまう。男性は意外と、就職で戻ってくるが、女性は戻ってこない。女性が働ける場があまりない。大学で外に出てしまうとまず戻ってこない。それをどうするか。

委員：せっかく大田原市に大学があるため、学生に住み続けてもらえるような仕掛けも重要だと思う。

会長：学生が来たらそのまま住めるようにする。

委員：交通アクセスと人の動きはリンクするため、そこを行政は見直しをする必要がある。また、地域によって最低賃金の格差もある。若い人はやはり交通アクセスと最低賃金のことが頭にあるため東京圏が選ばれる。

会長：交通の面であると、免許を返納した方たちも安心して住めるようなまちにすることが重要。道路だけ問うのは自動車だけの視点。高齢者も含めて暮らしやすいかどうか、10、20年後暮らしやすいかどうかというのを考えていく。今までの交通手段だけだと見えてこない。

委員：那須塩原駅の東口のエレベーターが設置されたのは、ここでの意見が反映された結果だと思っている。こういうところで話題に上がって、県北での取組、八溝定住は福島県など県を跨いでの取組につながっている。

- 会 長 : 圏域内全体が注目されて、みんなが暮らしやすいまちとなり、圏域内全体の人口が増えていけば良い。
- 委 員 : 公共交通を利用するときはインターネットで調べて利用するが、路線ごとに調べなくてはならない。駅まで行ったが、そこからはどうするのといったときに、それに対応した路線を調べなくてはならず、それが面倒になる。ヤフー乗換案内などを利用すれば簡単だが、地域バスなど細かい部分までは調べることができない。那須地域でどこに行くにしてもホームページで、一括で調べられるものがあると良い。例えば、塩原から那珂川町のどこまで行きたいと調べると行き方が一括で出てくるのが良いのかなと思う。
- 会 長 : 自動車を運転しないためバスをよく利用するが、調べるのが大変である。
- 副 会 長 : 公共交通関係の会議でもまったく同じような意見が出ている。ただ、ホームページの作成や維持に係る費用面がネックになっている。
- 会 長 : 確かに、時刻表が変わったらその都度対応しなければならない。
- 副 会 長 : しかし、時代の流れに対応する必要があると考えている。実際、東京に行ったときは便利なものを使っている。逆に、東京からこっちに来た人は不便に感じると思う。
- 会 長 : 東京は調べれば全部出てくる。費用面も含めて検討が必要。費用倒れになってしまっってはいけない。
- 委 員 : 個人的には、民間のサイトやアプリを通常使用すると思うのだが、どこに行きたいかと、バス停が連動しているかどうかだけである気がする。例えば、サッカー場に行きたい人が、サッカー場と調べると、どこのバス停に行くよというのが通常出てくるが、それはホームページの問題ではなくて、ネーミングや、交通網との連動性をどういう風にアプリに認識させるかが問題である。現実的には、東京で我々もアプリを使う。基本的には民間のアプリを使っているだけで、その民間のアプリに適応するようにバス停と公共施設を合わせて作るということがとても重要であると考えている。
- 会 長 : 色々な施設があるが、それらをうまく連動させられるようにできれば良いということ。
- 委 員 : 例えば、大田原市のトコトコに行くときに、それを調べると、トコトコというバス停は出てこない。住吉2丁目や3丁目が出てくるが、それがトコトコに行くバス停なのかどうか分からない。その連動性を作っていければ良い。
- 会 長 : これは大変良い話である。
- 委 員 : 私は自動車に乗ってしまうためあまり調べないが、公共交通で来た観光客の方々

は苦勞しているということだろう。

副会長：すでにできている民間のアプリにうまくのせるよう調整しなければならないのか。

委員：民間のアプリは、バス停は出ているが、そのバス停が目的地と近くなのかが分からない。バス停と行きたい場所をしっかりと連動させることが重要ということ。

委員：また、人口動態と施策を連動させることが重要。先ほど、地元の方を出さないという話と、外からの定住者をどうやって増やすかという話と、結婚前の学生で来ている方をどうやって残していくかという話は、おそらく全て連動していない気がする。そうすると、今回、人が増えたという市町は、いったいどんな人が増えているのかというのをしっかりとマーケティングする必要がある。那須塩原市は、東京から来る人が増えているが、これはおそらくコロナの影響でテレワークを推奨している企業もあることが要因の一つであると考えられる。その人たちをしっかりと定住させる施策と、県内からの来る人とは、ターゲットが違うのではなかろうか。もしくは、東京から来ている方たちは、こっちで就業しているのか、都内で働いているのか、というのを見定めて、都内で働いても良いけど、住民税は取りに行くぞという作戦なのか、そもそも企業誘致をかけて、県内の人たちを集めるぞという施策なのかは、今回の増加の中を見極めて、限られた予算の中で、どういう人を我々の市町の中に取り込みたいのかというのを明確にしておく。大きな時代の流れの中で、どういう施策を打っていくべきなのかということをしつかりとかたちにしていく必要がある。一方で、観光地に人が来てもらうというのと、定住するというのはまったく別の話になるので、その辺をどういう風に切り分けて、何の施策にどれくらいの力を注いでいくのかというのと、民間事業者とどういう風に連動していくのかという観点があると良いのではないかと思う。

会長：那須塩原市と那須町は、東京に住んでいる人たちにとっては、すごく印象が良いのであろう。また、東北から来る人も結構いる印象。先ほどの話のとおり、いろいろと分析していく必要があるということ。ただ、社会動態として、社会増になっているというのは、良い傾向かなと思う。

委員：一点確認したいのだが、那須塩原駅東口等バリアフリー化事業だが、エレベーターの管理ということで事業に記載されている。エレベーターの管理で、事故がないのは当然のことで、駐車場からの段差は何か検討がなされているのか。安全上の問題で、段差があるのかと考えるが、これは何か検討はなされたような経過はあるのか。

- 会 長 : エレベーターは車椅子でも入れるようになっているのか。
- 事務局 : なっている。
- 会 長 : 車椅子の車路があるかどうか。
- 委 員 : 有料駐車場から上がるのに 30 c m くらいの段差がある。車椅子で来た方はおそらく正面に行くから問題ないと思うが、有料駐車場で降りて、歩いていこうとしたときに、高齢者は結構大変だと思う。
- 企画部長 : 以前、那須塩原駅の西口と東口を両方合わせて再整備の計画を立ててはいたが、国の補助の申請が通らなかったということもあった状況で、そのままになっている。担当の都市整備課によれば、大型バスが出入りする関係で、普通の縁石よりもかなり高い段差の設計になっているということ。ただ、これは昔の設計であり、今の設計になれば、もう少し低くなる可能性もあるが、事業自体ができていないままになっている。少しでもバリアフリーを考えていかなければならないところではあるが、なかなかすぐには解消できない事情がある。
- 会 長 : 那須塩原駅周辺は新庁舎建設の問題もあり、全体で整備の予定がある中で、少しずつ整備をするというのは行政として難しいと思うが、解消できる工夫があれば、対応してほしいと思う。
- 委 員 : 今までの議論を踏まえ、今はやはりデジタル化が推進され、DX という言葉も出ている中で、個人的な経験からデジタルも大切だが、アナログとの連携が必要であると感じている。高齢者が困ったときに誰が助けるのか。地域連携とかネットワークの拡充であるとか、地域包括ケアという課題もあるが、地域包括ケアはどちらかという見回りなどをして、アナログ的な要素も大事にされている。例えば、デマンドタクシーなど公共交通機関、市町内を回っているバスがあり、これは当然、時刻表に基づいて出発、到着することが基本となっているが、それ以外の少しアナログ的なこと、顔を合わせる、見せる、声をかけるなどができたら、デジタルとアナログを合わせて、みんなでまちを守れるネットワーク形成ができるのではないかと課題として感じている。そのため、その辺りが圏域連携としてもより強化していくと良いのかなと思う。
- 副会長 : 交通事業者と行政とで見守りの協定を、那須塩原市、那須町と締結しており、異変に気が付いたらすぐ駆けつけて通報するという体制でやっている。
- 本日は、委員の皆さんから様々な意見があり、この懇談会の趣旨に則った素晴らしい意見が多数あったと感じている。これらの意見がそれぞれの部門に反映されて、より具体的な施策に結びつけるような努力が必要だと考える。
- 委 員 : 最後に、また予算の話になるが、再生可能エネルギー適正利用推進事業で行わ

れている太陽光安全パトロールについて、地域全体で太陽光の設置が増えている中で、危険性が高いものもあると感じている。それらをパトロールすることは大変重要であると感じるため、可能であれば必要な予算は計上し、事業を推進していただきたいと思う。

会 長 : 太陽光はこれからもどんどん増えていくのだから注視してやっていただきたい。

5 その他

- 事務局
(事務連絡。)

6 閉 会 (午後 0 時 3 分)